

鏡の間

「いそぎよく」ところいそぎよく

報告

玉川学園小学部

武村 昌 於

クラス（2年生）の学級通信の中で、次のような日記を載せた際に、「いそぎよいとはどういうこと？」という質問をしてみた。発言がひとしきり出た後で、それを作文に書かせてみた。

これらの作文の中で、「潔くする」ためには、2年生の子どもがどのような「構え」をもって状況（事態）を受け止め、それをどのような「感情」をもって収めようとしたかを、如実に見て取ることができる。また、そのような子どもの「構え」と「感情処理」の仕方の中に、子どもの言語生活を窺い知ることができる。それをパターンに分類したのが「」の付いた項目名であり、また、文中の「」部は、パターン分類以外にも「構え」や「感情処理」の見られる部分である。

小学部てん

（前半略）小学部てんがおわったあとに、はねつきをまさき君といっしょにしました。ほかぐがまけてしまいました。それですみをぬられるのににげたので、ぬられませんでした。ほかは、

「にげるが、かちだよう。」

と言いました。それで、家に帰りました。

お父さんとお母さんに、

「まけはまけなのだから、にげないで、男はいそぎよくすみをぬられなさい。」

と言われました。まさき君、ごめんなさい。

■「いそぎよく」「男らしく」

● とうとうと、いやがらずに、男らしく、せいせいとうとうと、むねをはってぬられる。（女子1）

● 男はがまんして、とうとうとにげないで、がまん強くする事。（男子1）

■「いそぎよく」

● 北島君は、とうとうとすみをぬられればよかった。（女子2）

（~~~~~）は、本人が下線を入れた部分

● まけたんだったら、にげないで、とうとうとすみ

をぬられるのが、いさぎよいといういみだと思
う。

(男子2)

●「にげるが、かちだよ。」と言わずに、どうどう
とすみをぬられればよかった。

(女子3)

●正しいのは、北島君が国本君にまけたから、北島
君が国本君にすみをどうどうとぬられればよ
かった。

(男子3)

■「男うごけ」

●男らしく、すみをぬってよいと言うことを、いさ
ぎよいと言う。

(女子4)

●男らしく、すみをぬってもいいよと言えること
を言う？

(男子4)

●①男らしくすみをぬってもらえばよかった。

●②コツをおぼえてからしよぶすればよかった。

●③ぬってもらうのがいやだったらしぬ気でしよ
うぶすればよかった。

(女子5)

●いさぎよくと言うのは、男なんだからにげない
で、れいぎよくいきなさい、といういみで、ほん
とうはにげなければよかった。

(男子5)

●北島君がまけたのだから、すみをぬらないと男
らしくない。

(女子6)

●北島くんはまけたのだから、男は強いんだから

ぬられなさい。

(女子7)

●いさぎよいは、きもちよく男はがまんをして、か
おにすみをぬられること。

(女子8)

■「ちゃんと」「男うごけ」

●北島君は、すみをぬられる時に、男らしくにげな
いですみをぬられなさいといういみ。つまりだ
れかにまけたりした時に、自分がわるいのだか
ら、ちゃんとばつのようなものをうけなければ
ならない。

(男子6)

●まけたときにちゃんとすみをぬる。にげないで
男子は、ルールだからすみをぬったほうがいい。
ルールはルールだから、ぬったらいと思いま
す。

(女子9)

●まけたから、ちゃんとルールをまもって、ゆうき
をだしてぬられること。男は、にげず、こわがら
ないでちゃんとゆうきをだしてぬられること。

(男子7)

●まけたから、ちゃんとルールをまもってすみを
ぬられればよかった。

(女子10)

●いさぎよいといういみは、ちゃんとありがたく

何かをされること。

(女子11)

●ちゃんとしよぶにまけたことをみとめて、い
やがらずに、ルールにしたがつてちゃんとその
ばつゲームをうけなければいけない。

(女子12)

■その他

●がまん強くて、ぬられてもいい気もちでいるこ
と。

(女子13)

●はねつきでまけたら、にげないで、もうしよが
ないから、すみをぬられればよかった。

(女子14)

●ぼくは、北島君がすなおにすればよかったと思
いました。

(男子8)

●にげないで、正直にすみをぬってもらう。がまん
する。

(女子15)

●自分が負けたことをみとめて、にげずにおとな
しく、文句も言わないですみをぬられればよ
かった。

(女子16)

●水をかけられることだって、すみをぬられるこ
ととおなじです。北島君のはずるです。ぼくは、
まけてもにげないで、すみをぬってもらうはず
です。ぼくは、ぬられたあと、顔をあらうはずで
す。

(男子9)